

春 告 草

第 44 号 平成 28 年 12 月 6 日 進路指導部発行

視線は入試本番へ

2 学期の期末試験が終わりました。6 年生にとっては 1 年生の時から数えて 29 回目、最後の定期試験が終わったこととなります。いよいよ全力で受験に向かう時期です。

これから入試までの間に心がけておいてもらいたいことをまとめました。参考にしてもらえれば幸いです。5 年生、4 年生も、1 年後、2 年後を思い浮かべながら一読しておいてください。

センター試験まで 46 日
頑張れ二期生！

The more we do, the more we can do.
もっとやれば、もっとできる。
William Hazlitt (英国人、著作家)

入試日程の検討と出願校の絞り込み

合格を期待できる判定は、国公立大 B 判定以上、私立大は C 判定以上

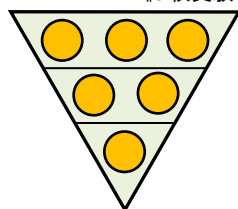
出願校検討は着々と進んでいると思うが、これまでの模試結果を評価し、入試本番までになすべきことを明確にして、受験計画を立てていこう。第 43 号でも述べた通り、現役生はこれから受験学力が伸びてくる時期。もちろん極端な伸びは期待しないことだが、過度に安全策を意識しないことも大切である。中学受験以来の「受験」で緊張することもあるだろうが、これまでやってきた取り組みに誇り^{プライド}をもち、これからの学力の伸びも考慮に入れて、出願プランを作成してみよう。

右表にベネッセ模試における志望校判定の評価基準を示した。

合格可能性は模試成績と可否結果を基にデータ処理をして得られたものであるが、現在の判定が良いからと言って、これが合格を保証するものではないし、下位層から合格の可能性もある。しかし、MARCH 位は…と言って判定 E の大学を闇雲に 5 校～6 校受験するのが良い受験プランとは思えない。一方「このレベル以下は受験しない。」と浪人覚悟で受験するのも良いが、「このレベルは合格できた」という実績を確認することも大切な経験になる。「国公立大 B 判定以上、私立大 C 判定以上」は個人的な見解であるが、挑戦校－実力相応校－安全校 の括りを意識して受験プランを作成してみよう。

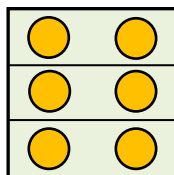
A	合格可能性 80%以上
B	60%～80%未満
C	40%～60%未満
D	20%～40%未満
E	20%未満

《6 校受験する場合の併願パターン》



チャレンジ校を 3 校する
強気の出願パターン

チャレンジ校
判定 D E
実力相応校
判定 B C
安全校
判定 A



各段階を 2 校ずつ受験する
平均的な出願パターン

《試験日程を組む上での注意事項》

1. 試験日が続くのは避ける。連続が避けられない場合でも、2 日連続に止める。3 日連続すると、体力の回復に 3 日はかかると思った方がよい。
2. 第 1 志望校の前には必ず、志望校よりも難易度の低い大学を受験しておく。
3. 国公立大は必ず後期日程までの受験を計画しておく。

出願校リストの作成と調査書発行の手続き

細かな指示は学年からありますが、「出願校リスト」を作成、提出してください。このリストを基に各担任が調査書を作成し、年末から年始にかけて経営企画室の方において発行して頂きます。皆さんへ調査書を渡すのは年明け 1 月 10 日の予定。私大センター利用入試出願締め切りは、1 月 13 日なので手続きは早めに済ませましょう。これよりも早く調査書が欲しい場合は、各担任へ相談してください。

願書 1 枚につき調査書 1 通が必要

大学によって多少事情は異なるが、「願書 1 枚につき調査書 1 通」が必要になる。私立大学はいろいろな入試方式があって、個別試験、全学部試験、センター利用試験など、試験によって必要となる調査書の数も下表に示す通り様々である。追加出願についても、再度調査書提出が必要なところもあれば、不要という大学もある。募集要項をよく読んで、ミスの無いよう手続きをしてください。

Web 出願の場合は、出願手続きをした後で調査書を郵送することになる。

願書の様式	必要となる調査書の数	大学例
全方式共通	1	Web 出願の導入により、多くの大学で調査書は 1 通で済むようになった。
全学部試験・個別試験が共通様式	1	すべての大学について調べたわけではないので、調査書が複数必要な大学もあるかも知れない。各大学の要項で確認してください。
センター利用試験が別様式	1	
個別試験とセンター利用試験が共通様式	1	
全学部試験が別様式	1	
方式毎に 1 枚ずつ	必要数だけ	



出願準備は冬休みのうちに！

年明けすぐに私立大学の出願が始まる。Web 出願に切り替えた大学はさらに増えた。入試要項を従来通り冊子で用意している大学もあるが、紙媒体を一切廃止した学校もある。場合によっては、入試要項をプリントアウトする必要もあるだろう。要項の確認と出願方法などについては早めに確認しておきたい。志願票（願書）への入力・記入は慣れない作業であるから、募集要項をよく読んで間違いの無いように記入・入力しよう。Web 出願については、締切日にアクセスが集中して、間に合わなかったという話も聞くので早めに準備しよう。

1 月になったら、勉強だけに集中したいものです。時間的にも気持ち的にもまだ余裕のある今のうちに、面倒なことは済ませておくことが賢明です。（Web 出願は年明け、1 月 5 日頃より受付が開始されるところが多いようです。）

Web 出願

準備から出願完了までの流れをチェック！



- ① 募集要項をダウンロード
- 入手には大学サイトでの申し込みが必要な場合がある。
- ② 出願に必要な書類を準備
- 要項をよく読み調査書など必要書類を用意しておく。
- ③ インターネット接続環境を確認
- スマートホンやタブレット端末に非対応だったり、プリンタが必要になることもあるので注意。メールアドレスが必要な場合もあるので準備しておこう。
- ④ 画面のガイドに従って入力
- 大学指定の出願サイトにアクセスする。ブラウザ設定（ポップアップ許可など）も忘れずに。画面の指示に従い、個人情報、入試方法、出願学部・学科などの必要事項を選択・入力する。
- ⑤ 入力事項をチェックして登録
- 入力データを確認し、支払い方法を指定して登録する。登録が完了すると「出願番号」、コンビニ・ＡＴＭなどの支払い用の番号なども発行されるので、メモまたは印刷。この段階で確認メールが届く大学もある。
- ⑥ 指定の方法で検定料を支払う
- 指定方法で検定料を支払う。一定期間内に行わないと出願登録自体が無効になるので注意。受理されると確認メールが届く。
- ⑦ 必要書類などを封筒で郵送
- 調査書、登録確認書、写真などを郵送する。同封の写真の裏面には氏名なども記入する。
- ⑧ 受験票が自宅に届く
- 大学によっては受験票の発送はせず、自宅でプリントしたものを当日持参するところもある。さらに、スマホなどに電子受験票が送られてくる大学もある。

入試スケジュール

- 12 月中旬まで センター試験受験票受領
- 1 月 10 日（火） 調査書交付
- 1 月上旬～ 私立大学出願
- 1 月 14 日（土） センター試験第 1 日目
（地歴・公民、国語、外国語、英語リスニング）
- 1 月 15 日（日） センター試験第 2 日目
（理科①、数学①、数学②、理科②）
- 1 月 16 日（月） データリサーチ
（センター試験自己採点）
- 1 月 23 日（月）～2 月 1 日（水）
国公立大学個別試験出願
（前期・中期・後期 ☆出願は同時期）
- 1 月下旬～ 私立大学一般入試受験
- 2 月 25 日（土）～ 国公立大学前期日程試験開始
- 3 月 8 日（水）～ 公立大学中期日程試験開始
- 3 月 12 日（土）～ 国公立大学後期日程試験開始

☆前期、中期、後期といっても、出願は同時期。
前期試験の結果を見てから後期への出願なんて
勝手に思い込まないように！

※インターネットで手続きできるのは、あくまでも出願手続きである。出願後、調査書や写真（※）などを郵送するまで完結すること。大学によっては写真の画像データを送るところがある。

登録した後でも、入金前なら登録内容の修正は可能。修正手続きは大学によって異なるので募集要項で確認しよう。

パソコンで表示・入力できない文字の人名や地名は、略字や代替文字を選択しておき入学手続き時に修正したり、漢字部分をスペース（空白）で置き換え「登録確認書」上で正しい漢字を記載するなど、各大学で対処法が用意されている。

※写真 受験票に貼る写真は、入学後にそのまま学生証に利用する大学が多い。4 年間使うことになるので、なるべく支障のない写真を選んだ方が無難だ。

センター試験は「時間」との勝負である



いよいよセンター試験が近づいてきた。今日で46日前である。6年生はセンタープレテストを明日、明後日に控えているが、あらためてセンター試験のことを復習しておこう。

センター試験の特徴を一言でいえば、**センター試験は時間との勝負**であるということである。

■拘束時間との勝負

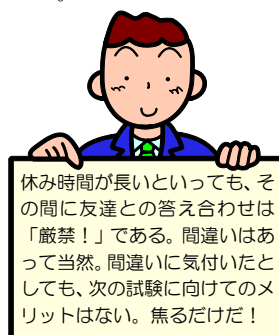
第一日目、文系の人で地歴・公民を2科目受験する人の試験開始は9時30分。国公立大理系で地歴・公民1科目受験の人でも10時40分に1科目めの試験が始まる。1日目は、地歴・公民に続けて国語、外国語の試験があるが、英語リスニングテストの開始時刻は17時10分である。朝から4科目を受験してヘトヘトになっているところで、集中力を発揮しなければいけないリスニングテストを最後に受験しなければいけない。

2日目は理科①（理科の基礎科目）を受験する人は9時30分が試験開始だ。数学①は11時20分から始まるが、理科②の終了時刻は17時40分である。

センター試験は長時間にわたって集中力を保たなければいけない体力勝負の試験なのだ。

■休み時間との勝負

理科②を1科目だけ受験する人の試験開始時刻は16時40分。国公立大理系志望の人は理科②2科目受験がほとんどのはずだが、国公立大教育系で理科①と理科②1科目を受験する人や、国公立大を受験しない場合は理科②は1科目受験で済む。理科②1科目受験の人にとっては、数学②が終わってからの2時間の**休み時間**をどう過ごすか（過ごせるか）は大変重要な課題なのだ。



■試験時間との勝負

時間をかければできる易しい問題でも、「焦ってしまって解けなかった！」という状況はすでに模試などで経験済みだろう。しかし所詮、模試は模試。入試本番ではこれまでに経験したことのないくらいの緊張感を体験するはずだ。そんな状況において普段通りの力を発揮する為には、日頃からのプレッシャーをかけた問題演習が必要である。本番を想定して時間を短縮する、テレビをわざとつけて解くなど「負荷」をかける練習をすることを心がけると良いだろう。

平成29年度 大学入試センター試験時間割

	教科	科目	試験時間		配点
第一日 1/14 (土)	地理 歴史	「世界史A」、「世界史B」 「日本史A」、「日本史B」 「地理A」、「地理B」	【1科目選択】 10:40～11:40	【2科目選択】 第1解答科目 9:30～10:30 (答案回収など) 10:30～10:40 第2解答科目 10:40～11:40	【1科目選択】 100点
	公民	「現代社会」、「倫理」 「政治・経済」、 「倫理、政治・経済」			【2科目選択】 200点
	国語	「国語」	13:00～14:20		200点
	外国語	「英語」、「ドイツ語」、 「フランス語」「中国語」、 「韓国語」	【筆記】 15:10～16:30 【リスニング】 17:10～18:10	【筆記】200点 【リスニング】50点	
第二日 1/15 (日)	理科①	「物理基礎」、「化学基礎」 「生物基礎」、「地学基礎」	9:30～10:30		100点
	数学①	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」	11:20～12:20		100点
	数学②	「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ・数学B」 「工業数理基礎」、「簿記・会計」 「情報関係基礎」	13:40～14:40		100点
	理科②	「物理」、「化学」、「生物」、 「地学」	【1科目選択】 16:40～17:40	【2科目選択】 第1解答科目 15:30～17:40 (答案回収など) 16:30～16:40 第2解答科目 16:40～17:40	【1科目選択】 100点 【2科目選択】 200点

入試直前の過ごし方

センター試験受験まで50日を切った。1日12時間勉強するとして600時間。これって学校の授業に換算すれば半年弱の授業時間に匹敵します。まだまだ時間はあります。そして、この間に現役生は学力をグーンと伸ばすことができます。やればできます。ただし、「やればできる」は「やらなきゃできない」でもあります。冬休みは以下の各点に注意して過ごしてください。

1. 生活リズムを大切にせよ

基本中の基本は、朝型の生活リズム。この時期からは朝型に切り替え、入試開始時刻に脳の活動がベストになるようにします。以下の2点を2週間続けると、身体が朝型に切り替わります。

- どんな手段を使っても朝6時には起床する
- 部屋を明るくし、少し汗をかく位の体操をして体温を上げる

2. 風邪をひかない

これからの時期、風邪は大敵。次の3点がポイントです。

- 暖房、換気、湿度に気を配る。特にインフル対策に加湿は有効。
- 外から帰ったら、手洗い、うがいを励行する。
- 質のいい睡眠で疲れを溜めない。



夢は大きく 希望は高く
そして受験に向かうハートは強く！

3. 気持ちを強く持て

「落ちたらどうしよう」「こんな勉強でいいのだろうか」などと迷わない。自分の計画を信じ、しっかり実践して、自分自身を励まそう。「これだけやれば必ず受かる！」「4月には憧れのキャンパスを闊歩している！」そう何度も自分に言い聞かせ、信念をもって最後までやり抜こう！

4. 苦手は基本を徹底せよ

苦手単元は、自分で理解できるレベルまで前に戻ります。重要例題に当たり、解説と首つ引きで一気に集中してやってみる。何度も繰り返し、全問の解法を暗記してしまうくらい徹底的にやろう。

5. 毎日テーマを重ねて学習せよ

この時期は学習内容のキープが大事です。前日にやったテーマの確認・復習をしてから次のテーマに進むとよいだろう。忘れないうちに繰り返し学習して、ヌケやモレを最小限に止めよう。また、人間は眠っている間が一番記憶したことを忘れないといえます。翌朝20分の復習も、とても効果的です。

6. 性質の違う教科を組み合わせる学習せよ

例えば、数学Ⅰ→現代文→英語→化学→古文→…というように教科の性質がなるべく異なるものを次にもってくる方が、脳の疲れも少なく、また覚えたものも忘れないことが実証されています。得意科目の間に苦手科目を挟んで学習する方法も効果の上がる学習法です。

7. 生活時間を気分転換として利用せよ

脳が疲労して思うように勉強が捗らないときは、夕食・入浴を気分転換としてうまく活用するとよいでしょう。夕食時は勉強のことは忘れる。入浴は熱めのお湯にして、身体が温まって気分もほぐれたと思ったら、さっと上がるようにする。睡眠もリラックスのための重要な要素です。6時間はぐっすり寝るようにしましょう。脳は眠っている間に記憶を整理してくれます。

8. 「ケアレスミス」と甘えるな！

この時期、点数ばかりに気を取られがち。今こそ、なぜ間違っただけに注意を向けよう。「ケアレスミスで片づけてはいけない。入試本番では、ケアレスミスも全く手が出せなかった問題も、同じ×。そもそも、ケアレスミスは100%の解答力がついていない証拠と心得よ。

9. 自分で解答を作れ

解答は必ずノートに書いて、自分の考えを「可視化」しよう。頭の中だけで考えて、分からないとすぐ答えを見えるというやり方では力がつかない。いろいろ書いて考えているうちに、解答をひらめくことがよくあります。英文和訳や英作文も同じ。できる部分だけでも書いてみる。記憶するときも同じ、目で見て、声に出したのを耳で聞いて、それを紙に書いて、また声に出す。五感をフル活用して覚えましょう。